いきものみっけ寺子屋

2014 年８月実施報告書

平成 26 年８月 12 日(火曜日)～13 日(水曜日)

主催：いきものみっけファーム滋賀推進協議会

平成 26 年度　甲賀市市民協働事業採択事業

目次

■　概要　3

■　内容の振り返り

12 日　【田んぼの圃場でのいきものみっけ】　5

【昼食】　5

【座学・環境学習】「水と物質と命の循環」　6

【里山でのいきものみっけウォークラリー】　8

【日韓交流会　】　１０

13 日　【琵琶湖でのプランクトン採取とプランクトン観察・プランクトン講話】【琵琶湖博物館企画展見学】　１１

■体制について　１３

■危機管理について　１３

■関係機関の協力　１４

■いきものみっけ寺子屋 8 月の成果　１４

■アンケート　１６

■参考　１９

いきものみっけファーム滋賀寺子屋＋日韓交流　報告

■概要

１，目的

① びわ湖流入河川上流域の川、田、里山とびわ湖を野外観察や博物館見学などを通して、身近な自然の構造と循環の仕組みを人の関わり方の視点から理解する。

② さまざまな生きものに出会うことで命の尊さを知り、私たちの暮らしは自然の恵みを受けて成り立っていることを知る。

③ 里山の自然・集落の景観の中で、いきもの・花・樹と暮らしを体験し、学習する。

④ 日韓交流を通してお互いの環境学習・文化を知り、交流を深める。

２，日時　　2014 年（H26）8 月 12 日〈火〉～13 日〈水〉

３，場所　　甲賀市山内公民館、山内地域（水田、水路、山女原集落）、琵琶湖博物館、琵琶湖の水辺、甲賀市青少年研修センター

４，参加者　70 名

子ども 40 名（日本 25 名、韓国 15 名）、大人 45 名〈日本 35 名、韓国 10 名）

日本：いきものみっけ寺子屋

韓国　水原(スウォン)市　ウォンチョンチョン河川を愛する会

５，日程

日		日　程	備　考
１２日（火）	AM	7:00朝食　　8:00「ケイズハウス京都」バス発→（大津IC→信楽IC）→JR9:35貴生川駅北口→10:10山内公民館	・JR（京都→貴生川） ・バス（貴生川→山内）
		10:30（オリエンテーション）	・団体紹介等
		10:40（活動１）生き物観察、（河瀬学芸員）	・生物、水質など
		12:10昼食（県大奥村T、学生）	・昼食（ちらしずし、すまし汁、マリネ、かんぴょうらすく、トッポギ・チジミ　等）
	PM	13:00（活動２）環境学習講話（三田村教授）	
		14:00（活動３）里山自然体験山女原（井野T）	
		16:00 感想まとめ（山内公民館）	・水環境全般について
		16:40宿泊所「甲南青少年研修センター」	・神社・寺、村内ｸﾞﾙｰﾌﾟ
		16:50夕食づくり	夕食（カレー）
		17:30夕食　　18:30シャワー	・アンケートも入れて
		19:00（活動４）文化交流：日韓発表（金井教授	

		20:15（活動５）環境文化講話（橋本T） 21:15自由時間 22:00就寝「甲南青少年研修センター」宿泊	
１３日 （水）	AM PM	6:00起床　6:30朝食づくり　7:00朝食 8:00甲南センター発〈バス〉→8:20貴生川駅→ →9:45琵琶湖博物館着→（実習室1へ） 9:50琵琶湖博物館説明（蜂屋T） 10:00 プランクトン採取（蜂屋Ｔ） 10:30（活動６）プランクトン観察（楠岡学芸員 11:30　プランクトン講話（三田村教授 12:00昼食（昼食弁当：外うみっこ広場で） 13:00（活動７）琵琶湖博物館内見学 ①　常設展　「自然、魚類、生活文化」 ②　特別展　「魚米の郷」 15:30琵琶湖博物館発→（バス） 16:30貴生川駅着 16:45「甲南青少年研修センター」着 17:00夕食づくり　17:30夕食 18:00シャワー 19:00（活動８）まとめ 20:00自由時間 22:00就寝「甲南青少年研修センター」宿泊	朝食（パン、牛乳など） ・ ネットなど博物館で借用 ・常設展（通訳機有り） ・検鏡 ・昼食（おにぎり弁当） ・特別展(通訳機有り) 夕食（牛丼） ・2日間のまとめ（韓国）

（宿泊所）

	8/12 8/13 日本 韓国	「甲南青少年研修センター」 所在：滋賀県甲賀市甲南町葛木８７５ 電話：0748-86-8185	

６，参加費　日本　日帰り　8/12　1500 円、8/13　2000 円（8/13 自家用車利用は 1000 円）
1 泊 2 日(8/12~8/13)　4500 円
（スタッフは食費、泊の場合諸費用自己負担）

７，主催　いきものみっけファーム滋賀推進協議会
共催　水のかけ橋 JAPAN

協力　甲賀市　東洋ライス　日本環境協会、滋賀県立大学　琵琶湖博物館
ボランティア

８，事務局　いきものみっけファーム滋賀推進協議会　事務局　竜王真紀

■内容のふりかえり

プログラム別

８月１２日(火曜日)
【田んぼの圃場でのいきものみっけ】
講師：河瀬学芸員(甲賀市みなくちこどもの森)

・当初川遊びであったが、数日前の台風と当時の朝の雨天のために増水し、川遊びはできなくなった、そのことをまずは、パネルを用いて河瀬氏から子供たちへの説明をした。
・室内でパネルによるいきものの説明、注意事項を丁寧に話された
・屋外に出てからは、班別での行動をした。
・一つ目は田んぼの水路での生き物探し、大きな網を使ってのいきものの取り方指導を受けた。
・二つ目の有機肥料を使っている田んぼでの生き物観察、田んぼであるので小さな網でのいきもの採取を学ぶ
・生息していた生き物は別紙。
・イトトリゲモは希少種。
特に、小さな生き物（カゲロウ幼虫、イトトンボ幼虫）やコオイムシ、タイコウチ、アカハライモリ、ドジョウなど、すべて「子ども（幼虫や幼生)」のステージが
見られて、田んぼの中で、多くの種類の濃密な繁殖が行われているのが、素晴らしいこと　でした。残念なことに、こうした水田は、農薬・除草剤を使ったり、アメリカザリガニが入ったことで、滋賀県内のほとんどの水田で見られなくなったというのが現状であるため、多様な生き物が居る圃場であることが確認されました。

【昼食】

県立大学の学生による献立、調理(調理は一部、地域の方々にもお手伝い頂く)

地域食材を活かした料理、韓国料理（山内・甲賀・韓国の３種類の食の提供）

メニュー：ちらし寿司、茄子とトマトのマリネ、すまし汁、かんぴょうラスク、人参ゼリー

・甲賀の特産品食材　みなくちかんぴょうを使った献立を立ててもらう。
・ちらし寿司は、エビや枝豆が入り豪華であった。
・夏野菜茄子、トマトを使ったマリネもあっさりは、オリーブオイルが入っていたことで洋風に仕上がっていた。
・かんぴょうラスクは、かんぴょうを一度水で戻してから揚げている。シナモンシュガー仕上げで、おつまみにも適して、大人もやめられないほどの食味であった。

・日韓交流で、韓国側からはチジミやトッポギの調理もされ、種類が多くなってしまった。
・また、地域のおばちゃんが作ってくれたちらし寿司は、味もよく美味しかった。しかし、いつものことだが、量がやや多いため残ってしまった。「不足するのはよくない」という気持ちがあり、あらかじめ量を予測できるよう改善していきたい。

・調理については、結局３つのグループが合同でしたことになるが、現場での調整、連絡が重要であるので今後の課題である。
・昼食メニューの検討を事前にしておきたい。
・昼食は人数が多かったので、机上でなく畳の上で行うことになったが、食事も田舎体験の一つと考えると、今後、箱膳などを作成して昔体験の場にしていきたい。

【環境学習】「水と物質と命の循環」　１３時１５分～14 時
講師：三田村緒佐武　先生　(滋賀大学　環境学　特任教授)
(森貴実代先生、韓国語通訳)

三田村先生の講義

身近な生きものの命の営みを観察して、私たちのあるべき環境を考える。

私たちの命は日々の食べ物によって支えられている。その食は他の生きものの命をいただいていることを理解したい。すなわち、全ての生きものが健全に生きていける地球にすることが、良い環境にすることだと気づきたい。午前に、田んぼのあぜ道で虫を虫の目線で捕まえたけど、できたら鳥の目、魚の目の三次元で観察できるように日常から学習したい。日本と韓国の子どもは豊かです。しかし、アフリカの人は食べられずに死んでいく人もいる。自分だけが生きられるのではなく、みんなが食べるものに困らずに生きていけることが大切です。そのために身近な生きものの命を大切にすることから考え始めたい。

水は大循環しる。水は、雲から雨になり陸に降って川に入る、川は湖に、海に流れ、再び蒸発して雲になる。身近な小川の水が、どこから流れてきてどこに流れて行くのかを調べて欲しい。水道水の蛇口をひねったら、水が出てくるけど、その水はどこから来ていか？そして、使った水はどこに流れていくのか？

川に入ったら、「見る」、「聞く」、「触る」、「臭う」、「味わう」の五感を使って川を観察する。水質調査からは調査したときの川の汚濁の状態、水生生物調査からは生きものが生活してきた期間の川の汚濁の状態を調査している。ホタルを好きな人も水生幼虫のホタルが好きだとは言わない。人の姿いろいろ、身なりで好き嫌いを思わずに世界の人が仲良くすることが大切です。その水生生物も何かを食べないと生きていけない。魚も人間も。今日の朝に魚や川虫を見つけた子どもは、彼らが何を食べて生きているのか、何に食べられるのかを考えてみましょう。

朝採取した生きものを彼らが棲んでいた自然に戻してあげましたね。川は人のものではなく、みんなのものであることを忘れないでほしい。

◆♫◆·*:..。◆♫◆*°¨°°·*:..。◆

川はだれのもの　　作詞作曲　みなみらんぼう

（NHK みんなのうた）

山に　降った　雨の　しずく
岩を　すべり　落ちて
やがて　細い　川となった
川は　森で　生まれた
川は　だれのもの？
住んでる　魚のものかしら？
それとも　雨のものかな？
森の　ものだろうか？

村を　くだり　町を流れ
川は　海を目ざす
鳥が　あそぶ　虹が　かかる
人の　希望　燃えたつ
川は　誰のもの？
岸辺の　緑のものかしら？
それとも　鳥のものかな？
人の　ものだろうか？

いいえ　どの川も　誰の　ものでもありません
生きてる　すべてのものです
川は　みんなのもの　　川は　みんなのもの
◆♫◆･*:.。◆♫◆*゜¨゜゜･*:.。◆

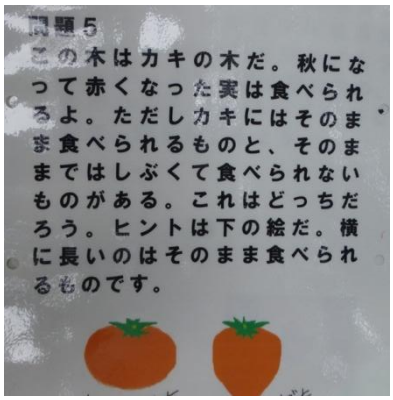
【里山でのいきものみっけウォークラリー】

14時半～16時半　山女原集落

井野先生(自然観察アドバイザー・小学校教諭)

方法

　フィールドは山女原（あけびはら）集落、民家３０戸の山里集落で鈴鹿山系の麓の山間の集落で自然が豊かで水・緑・文化的景観の整った里山の原風景が残っている。
身近に自然・いきもの・花樹や民家の佇まいに接することができる。
・いきものみっけで２７種類の昆虫を短時間で見つけ、振り返って、観察・学習を実施した。
4つの班に分けて（日本４つ、韓国３つ）がミックス班、前半後半に分けて活動する。前半の 2 つの班は、ウォークラリーで山女原集落を散策、各地点に置かれているクイズにグループで相談しながら、答える。待機の２つの班は、上林神社の境内でいきもの探しをし、いきものを持って報告に来る。多くの種類を探すことが目的、子どもが持ってきた生き物を透明のケースに入れて、名前がわかるものは名前を明記する。



　４０分経過したら、ウォークラリーチームが帰ってくるので交代して、ウォークラリーチームは散策に出かける。後半に上林神社で待機の２つの班は、葉っぱ探し、枝でも可、探して持ってくる。
　ウォークラリーでは、現地で調べ相談・対話をして答えを出すこと、待機での里山いきものみっけでは、多様な種類の植物や生き物を探すことを体験した。
・子どもだけでなく、子どもと一緒に散策している大人たちが里山の景色風景に感激されているようであった。
この企画に対しては、井野教諭が何度も下見調査をして現地に適したクイズを考案し準備された。そして、１時間前にリーダーはマップを持ってウォークラリーのルートを歩き、安全に備えた。
クイズ内容

問題１

このお寺、地副寺の建物の足元の地面を見てみよう。小さな穴がたくさんあいているね。さて、これはなんだろう。次の３つから選んでください。

ア）雨がたくさん落ちてあながあいた

イ）虫の作った落とし穴（ありが落ちたらえさにする）

ウ）モグラがあけた穴

問題２

この木を触ってみよう。とてもつるつるだね。この木はあまりにつるつるなので、ある動物が登れない木、という事で名前が付きました。さてその名前は？次の３つのうちから選んでください。

ア）リススベリ

イ）ネコスベリ

ウ）サルスベリ

問題３

このあたりにある緑の葉っぱはみんな「お茶」の葉だよ。ここ土山町は有名なお茶の産地なんだ。ちょっとだけ落ちている葉をちぎってにおいをかいでみよう。お茶の匂いがしたひとは答えの紙に〇をします。

問題４

ここに赤い葉の木があるね。これは紅葉の仲間の木だ。（ショウジョウモミジかノムラモミジ）さて、子の鼻先のとがったところはいくつあるかな？数えてみよう。

ア）６つ

イ）７つ

ウ）８つ

問題５

ここに生えているピンクの花びらは「ナデシコ」という花だ。きれいでしょ。さて花びらは何枚あるかな？

ア）４まい

イ）５まい

ウ）１まい

問題６

　ここにいっぱい並んでいる黒くて四角い板は大事なことに使っているよ。さて、つぎの３つのうち何だろう。

ア）太陽の光から電気を作っている

イ）風から電気を作っている

ウ）雨から電気を作っている　　一部省略

【日韓交流会　】　　２０時から２１時半
甲南研修センター

プログラム
子どもたちによる日本・韓国の川。いきものの調査報告、文化交流（音楽・狂言）

① 韓国の子どもたちのリコーダー発表
② 日本の子ども狂言披露
③ 日本の子ども活動発表
④ 韓国の子ども　活動発表
⑤ その他

活動の発表の前に文化的な交流を行い、場が和んだ。
日本の報告としては、いきものみっけ寺子屋の活動としては年数が少ないので、山内エコクラブの５年前からの主に川に関する活動を発表した。
日本の子どもたち１１名は、大半が当日参加であり、活動はしていなかったが、即座に子どもたちで役割を決めて発表することができた。
・韓国の子どもたち１４名からの発表では、自分たちが水辺で好きな小動物や生き物をイラストした袋を見せ、一人ひとりが発表をされる。「この生き物を選んだ理由、活動をやっている理由、年数」などを発表してくれた。２年から５年以上の子どもたちもいたが、「自分の住んでいる近くの川がきれいになって欲しい」「生き物がたくさんいて欲しい」というような表現が多くの子供たちから出されていた。
・韓国の子供たちからは、自分たちが描いたイラスト入りの体位さな袋を日本の子供たちにプレゼントされた。

・韓国のウォンチョンチョン河川を愛する団体
　１０年前からの活動である、市にサムソンなどの大きな工場などが誘致され、自然を愛護しなければならない動きが出てきた中、当初は今の代表キムサンホイさん夫婦で始めた活動が、仲間が増え、子供も大人も入った河川愛護団体となっている。
（水原市の市長が、自然活動派であることで、水原では多くの環境保護団体ができている）
この団体の特徴として、大人や親が自然観察のリーダーとして養成されていくということ

である。何人かの専門家はいるが、大人たちが熱心で子どもたちのためにだけではなく活動されているということである。

現・いきものみっけ寺子屋は、「子どもの自然体験、農業体験をさせたい」という親のニーズは高くとも親自身の環境への意識改革や人材育成を目標にしていないために、持続可能な環境教育のありかたの学びとなった。

８月１３日(水曜日)
【琵琶湖でのプランクトン採取とプランクトン観察・プランクトン講話】
講師：楠岡学芸員、三田村先生(通訳　森先生)

三田村先生の講義

琵琶湖博物館の実習室で、琵琶湖の自然の概要と、プランクトンネットによる琵琶湖のプランクトンの採取方法の説明があった。そして、博物館前の琵琶湖のプランクトンをグループごとに採取して、実習室に戻り、プランクトンを顕微鏡下で観察した。子どもたちは、水の中の小さな生きものの世界に大興奮の様子だった。

水生生物は彼らの生活型から、プランクトン、ネクトン、ベントス、ニューストンに分類される。プランクトンは遊泳能力がないもの、ネクトンは遊泳能力があるもの、ベントスは湖底で生活するもの、ニューストンは水面で生活するものとして分けられている。顕微鏡で観察したプランクトンは、小さいか大きいか、湖に棲んでいるか海に棲んでいるか、そして植物か動物かからも分類されている。

私たちが食べている魚もこのプランクトンを食べている。すなわち、「食う－食われる」の関係の食物連鎖がすべての生きものの世界にある。食われる側も自分の命を保つ必要があるから、食われる側は多くが棲んでいなければならない。このバランスが自然では重要である。

本日の「まとめ」で、①川と湖にはたくさんの生き物が生息していること．②生きものの命を大切にしなければならないこと．③人の命は彼らの命によって支えられていること．④水生生物の命を守るために川と湖を汚さないこと．⑤みんなが身近な場所で水と物質と命の循環を考え行動すること．が私たちの命を守ることにつながると力説された。

２日間の三田村先生の講義は、子どもと一緒に聞いている大人たちが、環境に対して人間としてどのような意識と行動を持っていくべきかの気づきを投げかけられていたようでした。

特別企画展「魚米之郷」と常設展の拝観(自由時間)

「特別企画展「魚米之郷」と常設展の拝観（自由時間）―滋賀の文化情報誌　Ｄｕｅｔより―

・「魚米之郷―太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らし―

上海の西方、長江（揚子江）南岸の江南地方は「魚米之郷」とも称され、水路に囲まれた農地と湖沼から豊かな農産物と水産物の恵みを得ています。

その中心に位置する太湖、さらに長江中流の洞庭湖、そして日本の琵琶湖における

水辺の暮らしを紹介する企画展示

第一部　湖と暮らし―長江文化と日本列島―

第二部　水環境の知恵―水文化にみる湖との暮らし―

第三部　魚と湖―漁にみる湖との暮らし―

第四部　米と湖―農にみる湖との暮らし―

第五部　湖と暮らしの未来へ―エピローグ―

■体制について

いきものみっけファーム滋賀推進協議会における里学部の事業であるが、平日であり、スタッフが集まりにくかった反面、甲賀市市民協働事業の甲賀市農業振興課職員、山内地域市民センター職員、山内自治振興会など、市外から環境教育に明るい方々も地域ボランティアとともにスタッフとしてお手伝いいただけた。

ゲストティチャーとしては、三田村先生、河瀬学芸委員、井野教諭、琵琶湖博物館学芸員の方々、県立大学の奥村先生と学生たちによる昼食メニューの作成など、レベルの高い学習の場となった。ひとりひとりの先生方の事前準備等は、かなりの時間をかけていただいた。

少ないスタッフの中で、班分けにして日韓合同で交流して活動できた。

また、日韓交流に魅力を感じる参加者や、通訳として二日間にわたり参加いただけた森さんのご協力があった。ただ、天候が台風が直近にあったこと、により当日スケジュール、スタッフの役割分担の変更があり、ご迷惑をおかけした。

■危機管理について

甲賀市自然体験活動ガイドラインに沿った緊急時体制作りをし、下見を行ってる。

日韓交流での韓国団体が河川を愛する団体であったために、川をメインとした内容を希

望されていたが、台風、雨天が続いたということで、安全性を考慮し、川遊びではなく水路での学習に切り替えた。滋賀からの参加者は大半が現地まで自家用車で来ることで、保険加入を行い、１日目の山内会場では、駐車場誘導係を３人置き、事故防止に努めた。
熱中症防止のための飲水励行と水の確保、体調不良時、授乳や昼寝の場所確保を行った。
　また、保護者が同伴であるために、保護者による子どもの注意喚起を促した。
以上の体制から、大きな事故には繋がらなかったが、全員で子ども一日に４０名を超えたことについては、スタッフの人数から考え、許容オーバーであったかもしれない、今後の検討が必要である。

■関係機関の協力

・県立大学　管理食物学科　奥村先生と学生たちによる昼食メニュー作成と食事作り
・山内おむすびの会による食事作り応援
・甲賀市　農業振興課、生活環境課
・公益財団法人　日本環境協会によるホームページ全国発信
・東洋ライスからの、参加者へのお土産「タニタ食堂の金芽米レトルトパック」提供
・甲賀市広報課　あいこむ甲賀、の取材
・中日新聞、読売新聞取材
・地域のボランティア、学生ボランティア
・森貴実代氏による韓国語通訳
・橋本夏次氏による川指導判断(RAC)

ゲストティチャー
・三田村緒佐武　先生(滋賀大学　及び滋賀県立大学　環境生態学特任教授)
・河瀬直幹学芸員(みなくちこどもの森)
・井野勝行教諭(県内小学校教諭)
・楠岡学芸員(琵琶湖博物館)

■いきものみっけ寺子屋 2014. 8 月の成果

①環境学習の場の設定

今年度は４回目になるいきものみっけ寺子屋、寺子屋という名前のとおり、楽しみだけでなく、学びを得られる機会にすることを目的とした。
全てのプログラムのテーマは、「いきものの命と私たち」であり、私たちは自然の中の多くの生き物と共存しながら生きていること、支え支え合いながら暮らしている自分の発見を狙った。稲の成長や生き物探しにより、私たちは多くの生き物から“命”をいただいていることを伝えた。子供たちからのアンケートでの感想からも「生き物探し」が一番の印象にあったようであるが、自分で現地に行き、探し、見つけ、交流できる内容であったと思われる。
また、子どもたちの気づきは、大人・保護者の気づきや学び・喜びにつながっていくことが期待できる。

②韓国との国際交流

寺子屋に日本の子どもに加え、韓国の子どもたちが参加したことで、いきものみっけ事業への広がりが見られたが、日本の子どもたちに国際交流の場であることの目的をしっかり伝えていなかったので、日帰りの子どもたちの交流成果は十分ではなかった。宿泊した子どもたちは、日韓の文化交流を行い、韓国水原市の子どもたちの活動の様子を知ることができ、山内の活動の様子も紹介することができた。 日韓交流を進める場合は、継続して参加する子どもたちを確保し、質の良い体験学習を重ねて、文化交流にまで高め合う子どもを育成するようにしたい。

③行政との協働取り組み

平成 26 年度　甲賀市市民協働事業として農業振興課、生活環境課には事前周知、広報、そして当日スタッフとして主体的に関わってもらえたいへん助かった。今後は、企画段階から関わってもらえるように働きかけていく必要がある。
今回の取り組みを地域を題材にした地域発見であり、まちづくりの一歩である。参加した子ども大人だけでなく、受け入れる地域住民やボランティアスタッフが今後もつながり、生かされ、広がり、深まるためには組織的な仕組み作りが必要で、ビジョンの共有化が図れるような働きかけも行政にしていく必要がある。

④環境学習の多くの専門家からの学び

「いきものみっけ」　をテーマに、河瀬学芸員、三田村教授、井野教諭、楠岡学芸員などの環境教育の専門家から、いきものに対する学習・調査・観察・振り返り（まとめ）の一連の流れを学んだ。具体的には、いきもの理解に向けての理念の理解（理論編）調査・観察・記録と振り返りまとめ学習（現地・実践編）が体系化され、（三田村先生・井阪先生の理論編と河瀬学芸員、井野先生や楠岡学芸員の現地・実践編）の相互関連を重視した学びを提供できた。　琵琶湖に注ぐ野洲川の上流である山内の川（田村川）と中流域（びわ湖）の２地点を調査、観察したことで、川、自然のつながりの学びができた。

地域の自然理解といきもの・植物と文化的環境の総合理解としてのウォークラリーの取組みも、子どもだけでなく、親や大人が一緒に体験することで、楽しみながら子どもの発見や気づきにふれ、大人として環境に配慮した暮らしを考える機会となったのではないかと考える。

また、滋賀県が誇る琵琶湖博物館や学芸員を活用した取り組みは、今後も取り入れていきたい。

今回の学びを深化させてくださった各先生方が行われた対象に合わせた資料作り、現地下見、講義内容の準備については敬意を表すとともに、マニュアルの検討も必要かと思われた。

⑤住民との協力体制の強化

子どもたちが環境学習を行う際に、必要なのが現場(地域)での学習である。未来を担う子どもたちが自分の身近な自然や生きもの、生活に目を向けるためには、大人たちが学ぶ場所を提供しなければ、体験を通した学びは得られない。

寺子屋は、少子過疎化は深刻な課題になっている山内という中山間地をフィールドにしている(今後は広がっていく可能性もある)。5 年前には考えられなかった、地域外の子どもたちの受け入れが、農家民泊事業や 2 年前の沖縄の子ども交流、4 年前の日韓交流も行われている。寺子屋は、準備や見守り等時間を作っていただき、大変な迷惑をかけているのは事実であるが、本当にたくさんの地域の方に関わっていただき、支えられている。

逆に「来てもらえることが嬉しい」との言葉ができるようになっている。

寺子屋を通じて、地域の新しい発見を地元住民ができ地域住民の活躍の場所、居場所作り、自信と誇りにつながり、しいてはコミュニティの再生につなげられることに努力していく必要がある。

■アンケート（参加者の日本の子どもが回答）

１、 何が一番楽しかったですか？

・田んぼでカニやタイコウチを見つけたことです（８歳　栗東市）
・田んぼでカニやドジョウを観察したこと(3 歳 栗東市)
・全部(7 歳　草津市)
・問題を解くこと(2 年生　大津市)
・里山探検(6 歳　草津市)
・ウォークラリー(10 歳　甲賀市)(10 歳　甲賀市)(14 歳　日野町)
・神社での生き物みっけ(11 歳　甲賀市)
・ドジョウ、魚とり（４歳　多賀町）
・虫とり（１２歳　近江八幡市）
・生き物みつけ(11 歳　甲賀市)
・お昼ご飯(17 歳　湖南市)(17 歳　日野町)
・生き物を見つけるのが楽しかった(10 歳　彦根市)
・人としゃべること(11 歳　大津市)
・全部楽しかった。ウォークラリーで虫を探したこと（８歳　野洲市）
・田んぼの生き物探し（１３歳　多賀町）
・クイズ(7 歳　京都市)
・魚とり
・いきもの観察(11 歳　栗東市)
・顕微鏡でプランクトンを見たこと（８歳　甲賀市）
・自分と同じくらいのサンショウウオを見たこと（８歳　甲賀市）

２、これからどんなことなら参加されますか？

・川遊び、化石採集（８歳　野洲市）(7 歳　草津市)
・水遊びなど(11 歳　甲賀市)(11 歳甲賀市)
・いきものの観察、採集（４歳　多賀町）
・川遊び(10 歳　彦根市)(10 歳　甲賀市)(10 歳甲賀市)(3 歳　栗東市)（８歳　栗東市）
・里山探検、稲刈り、水遊び(6 歳　草津市)
・粘土で観察したいきものを作ってみたい（８歳　甲賀市）
・森のハイキング(7 歳　京都市)
・動物とふれあうこと（８歳　甲賀市）

２、　参加費はいかがでしたか？（保護者さんのみ）

回答者 15 名
妥当　11 名　（理由）
・それぞれ、専門の方のお話があったり、安全にも気を配って頂いたり、さらに昼食もたいへん美味しかったです（８歳保護者　野洲市）
安い　4 名　（理由）
・教えて頂いたことを考えると、非常にリーズナブル（10 歳保護者　彦根市）
・2000 円くらいでも十分です（7 歳保護者　京都市）
・宿泊込みのお値段だから（１３歳　多賀町

■「水辺と遊び」についてアンケート

１、　水辺（川など）で遊んだことはありますか？（回答者 28 名）

１ある（28 名　複数選択可）
　①　水泳（15 名）　　②魚とり（23 名）　　③船遊び（4 名）
　④その他（どんな遊びですか。詳しく書いてください）
　・いきものを川でとったりした
　・石のダムづくり
　・ザリガニとり
　・おにごっこ、おいかけっこ
　・水遊び
　2 ない（0 名）

２、　水辺（川など）で何がしたいですか？

・泳ぎたい（7 名）
・魚とり（6 名）
・水鉄砲でうちあいたい（11 歳　甲賀市）
・釣り
・ザリガニとり
・いろんな生物を見つける（7 歳　京都市）（６歳　草津市）
・笹舟を作ってみんなで競争したい（8 歳　甲賀市）
・素潜り（11 歳　大津市）

○水辺での課題は？

・けがや溺れないようにする（８歳　甲賀市）
・水の約束を守る。珍しいいきものを持ち帰ったりしない（８歳　千葉県）
・事故などにならないように注意しながら楽しく遊ぶ（11 歳　甲賀市）
・雨が降ったとき、後は危ないので気をつける（４歳保護者　多賀町）
・美しくしたい（7 歳　草津市）
・子供たちの安全（８歳保護者　野洲市）
・ごみがない。危険物がない（7 歳　甲賀市）
・楽しく水に親しみたい（11 歳　甲賀市）
・ゴミを捨てない（17 歳　日野町）

○どんな水辺がいいですか？
・きれい。魚がいっぱい（８歳　千葉県）
・きれいなところ（８歳　甲賀市）（11 歳　大津市）（10 歳　甲賀市）（10 歳　甲賀市）（11 歳　栗東市）（11 歳　甲賀市）（10 歳　千葉県）（3 歳　栗東市）（12 歳　近江八幡市）
・みんなが安心して使え、いきものがたくさんいる川（17 歳　日野町）
・深くて泳げるところ（８歳　甲賀市）
・ゴミのない水辺（13 歳　多賀町）
・小さな子でも安心できる深さ（12 歳　甲賀市）
・いっぱい遊べるところ（５歳　千葉県）
・整備された川。トイレのある施設（7 歳　千葉県）
・きれいな川で魚がたくさんいるところ。増水した時、雷が鳴った時にすぐに戻れるところ（８歳　野洲市）
・深い水辺（10 歳　千葉県）
・大きな水辺（7 歳　大津市）
・多様な生物が観察できるところ（４歳　多賀町）

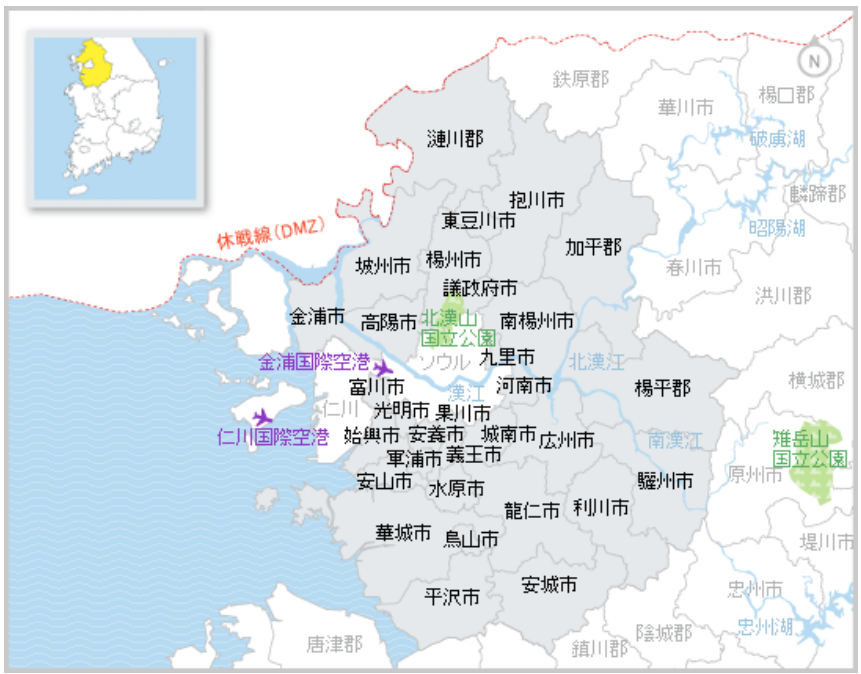
■参考： 韓国　水原市（スウォン）

　水原市は京畿道の道庁所在地で、ソウル市の南４４Ｋｍに位置する首都圏南部の拠点都市です。
四季の変化が明瞭で自然が豊かな同市は、農業を中心として発達してきましたが、近年は電子工業、繊維工業、化学工業、食品工業などが発展し、工業都市へと変化を遂げてきています。
交通の要衝でもあり、４つの大学、２つの専門大学、国の農業研究機関などが設置された研究学術都市としての機能も持っています。
市中心部には、１８世紀に築城され、ユネスコ世界文化遺産にも登録されている水原華城があり、歴史的遺跡も多く残されています。
２００２（平成１４）年にはワールドカップサッカー大会の開催地となり、関連する様々な記念行事が行われています。　日本とは北海道旭川市と姉妹提携を結んでいます。

面積: 121.1 km²

総人口: 1,161,575 人

世帯数: 439,996 世帯



今回、来訪された「ウォンチョンチョン　河川を愛する会」の代表３人がは平成２５年１１月３日に滋賀　山内の川を視察され、今回の交流が実現されました。

１２日　昼食メニュー

ちらし寿司（散らしずし）は、器に入れた寿司飯（酢飯）の上に具を散らせて作る寿司の一種である。「ちらし寿司」の語源は、寿司飯（酢飯）の上に様々な具を「散らし（**ちらし**）」て作る事であり、土山では、年輩の方が「ばらずし」と言う人もいる。。添えられる汁物は通常は吸い物であるが、味噌汁の場合もある。雛祭りなど、祝い事の際に食べられる事も多い

水口かんぴょう：滋賀県には、かんぴょうの発祥地とも言われる産地があります。それは甲賀市水口（みなくち）町、「水口かんぴょう」でその名を知られています。

　かつて東海道の５０番目の宿場町「水口宿」として栄え、歌川広重の錦絵「東海道五十三次」にも、水口宿は「かんぴょう」を干す夏の女性達の場面が描かれています。諸説ありますが、1600 年ごろ水口岡山城主　長束正家が作らせ、その後下野国壬生（栃木県）に伝わったとされていることから「かんぴょう発祥の地」とも言われています。

　かんぴょうづくりは、まずユウガオの実を、機械にかけて外皮を削り、幅３センチ、薄さ２～３ミリに真っ白な実を細長く剥くところから始まります。水口かんぴょうは、柔らかく、味がしみやすく、出汁を良く含むという特長があり、それに加え、収穫後に硫黄等で漂白しない「無漂白」というのも、安心して使ってもらえる理由のようです。巻き寿司はもちろん、和え物や、ゼリーなどに料理されて出されているそうです。

チヂミ（찌짐）：またはチジミは、韓国料理の一つである。いずれも「平たく伸ばして焼いたもの」という意味である。特に朝鮮王朝の宮廷料理では「ジョンユファ、ジョンユオ」だと呼んだ。「찌짐」の標準的な翻字は「チジム」となるが、日本では「チヂミ」の表記が一般的である。「韓国風お好み焼き」と呼ばれる場合もある。

トッポギ：トッポギ棒状のトックをコチュジャンや砂糖を使って甘辛く炒めたもので、韓国の庶民料理として親しまれ屋台の定番メニューとなっている。間食や夜食としても食べられている。同じく辛いキムチが子供にあまり人気がない一方、こちらは人気がある。

いきものみっけファーム滋賀　推進協議会

里学部(環境学習部)

いきものみっけ寺子屋2014．8 月実施報告書

発行　２０１４年８月
いきものみっけファーム滋賀推進協議会
事務局　　〒５２８－０２０８
滋賀県甲賀市土山町黒川
E-mail:ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp
事務局連絡先　　090-7966-2262
総括文責　　竜王真紀

この事業は、 平成 26 年度甲賀市市民協働事業の助成を受け実施しました。